

といった、いわゆる学校嫌いの気持ちを生じさせ、不登校になってしまうケースがある。また、子どもにとって友人関係がもつ意味や意義は極めて大きなものがあるが、このことがうまくいかず不登校になってしまうケースもある。

- 家庭を取り巻く地域社会の変化、子どもの遊びの変化等により、子どもの調和的な成長を支える教育基盤が脆弱化<sup>ぜいじやく</sup>しており、子どもがたく

ましく生きる力を十分に身につけられないまま成長している面がある。

- さまざまな不登校のケースの中には、子どもや親が何が何でも学校に行かなければならないという義務感を抱く結果、それがプレッシャーとなり不登校の状態をかえって悪化させてしまうケースが少なくない。

## 2 来所相談、適応指導教室の子どもの声

### (1) 子どもの声、不登校の子どもの姿、基本的なかかわり

	悩む子どもの声、姿	基本的なかかわり	変容していく子どもの声
小 4 A 男	「先生、こわいよ。勉強できないと怒られるんじゃないかと心配になる」「学校、こわいよ」「勉強は自信ないな」	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 遊びや運動等によって自分に自信をもたせ、不安を軽減するかかわり</li> <li>• 生活リズム改善の助言</li> </ul>	『僕、勉強できるようになりたいよ』『勉強もやればできるようになるんだ』『友達っていいなあ。大好き』
中 2 B 子	「友達が何かいつもひそひそ言ってる」「人が信じられない」「学校なんていや」「先生にも話をしたくない」	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分を見つめていけるような環境調整（保健室での学習、自主的な活動）</li> <li>• 話を聴くことで考えを整理できるような支援</li> </ul>	『友達がほしい』『お父さん、お母さん、話を聞いて！』『小学校の時にいやなことがあって……（自分の見つめ直し）』
小 3 D 男	「友達なんて面倒くさい」「勉強なんて、わかればいいんだから一人でやった方が早くわかるようになる」	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 説得をしようとせず本人がリラックスできる場をつくり、本当の自分に気づけるようなかかわり</li> </ul>	『本当は、学校に行きたい』『みんなと遊んだり、勉強したりできる友達がうらやましい。本当は、ぼくもそうしたい』
小 4 E 子	「……………」 「何がどうなっているのか………自分でもわからない」	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 生活リズム改善の助言</li> <li>• 言葉以外の表現で気持ちを表出したり不安を軽減したりできるようなかかわり</li> </ul>	『わたし、とってもさびしい』『友達が欲しい』『お母さん、一緒にいて』
小 1 F 子	「学校、行きたくない」「お母さん、一緒に遊んで」「わたしは運動が下手だから、だめなんだ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本人の甘えたい気持ちを満たすような環境作り（母親との登校、学習）</li> <li>• 生活リズム改善の助言</li> </ul>	『もうちょっと、休みたい』『先生、お母さん、ちょっとわたしを見ていて』